第 46 回

大阪市都市景観委員会

議 事 録

日	時	平成 2 8 年 1 月 1 8 日 (月)
		午後 1 時 0 0 分～午後 3 時 2 5 分
場	所	大阪市役所 屋上階 (P 1) 会議室

大阪市都市景観委員会（第46回）

1. 開催日時 平成28年1月18日（月）午後1時00分～午後3時25分

2. 開催場所 大阪市役所 屋上階（P1）会議室

3. 出席者

（1）委員（敬称略）

委員長 澤 木 昌 典

委員長代理 嘉 名 光 市

委員 阿 部 昌 樹

下 村 泰 彦

田 中 み さ 子

中 嶋 節 子

長 町 志 穂

橋 寺 知 子

山 納 洋

（2）市 側

眞 田 建設局管理部長

寺 川 建設局企画室長

木 下 建設局公園緑化部調整課長代理

若 井 都市整備局まちづくり事業企画担当課長

田 中 港湾局営業推進室長

植 木 教育委員会事務局文化財保護課長

（3）府 側

戸 田 住宅まちづくり部都市空間創造室長

事務局（都市計画局）

安 藤 開発調整部長

友 田 開発調整部都市景観担当課長

中 西 開発調整部都市景観担当課長代理

松 崎 開発調整部開発誘導課 担当係長

松 村 開発調整部開発誘導課 担当係員

4. 会議次第

1 開 会

2 議 題

(1) 今後の景観施策のあり方について

(2) その他

- ・都市景観資源検討部会における都市景観資源（阿倍野区）の審査結果について

3 閉 会

[配付資料]

- ・資料1 今回の主な論点
- ・資料2 今後の景観施策のあり方について（検討資料）
- ・資料3 今後の景観施策のあり方について（とりまとめ案）
- ・資料4 大阪市景観計画改正案（事務局たたき台）（※）
- ・資料5 大阪市都市景観条例改正方針案（※）
- ・参考資料1 第45回都市景観委員会での主な委員意見（※）
- ・参考資料2 景観重要建造物及び景観重要樹木候補の抽出について（※）
- ・参考資料3 色彩調査の結果について（※）
- ・資料6 阿倍野区の都市景観資源審査結果について（※）

（※）委員限り資料

4. 議事の概要

○中西都市景観担当課長代理

それでは、定刻がまいりましたので、ただいまより第46回大阪市都市景観委員会を開催させていただきます。

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日、進行役を務めさせていただきます大阪市都市計画局開発調整部開発誘導課都市景観担当課長代理中西と申します。

本日の都市景観委員会には委員11名中9名の御出席をいただいております。岡田委員及び加賀委員のお二方につきましては、本日は都合が合わず御欠席となっております。また、大阪府住宅まちづくり部戸田室長につきましては、出席予定ですが、少し遅れると伺

っております。また、都市計画局長の川田及び角田計画部長につきましては、急遽別件が入りまして、欠席させていただくこととなりましたので、お伝えさせていただきます。

議事に入ります前に、配付資料の御確認をお願いいたします。座って説明させていただきます。

お手元の資料の一番上に議事次第を置かせていただいております。次に、出席予定者、配席図となっておりまして、以後、少し分厚くなっていますが資料が続いております。

資料1、今回の主な論点。資料2、A3で今後の景観施策のあり方について（検討資料）。資料3、今後の景観施策のあり方について（取りまとめ案）。資料4、大阪市景観計画改正案（事務局たたき台）。資料5が、大阪市都市景観条例改正方針案となっております。

その次の束になりますが、参考資料1が、第45回都市景観委員会での主な委員意見。参考資料2、景観重要建造物及び景観重要樹木候補の抽出について。そして、参考資料3、色彩調査の結果についてとなっております。

それから、最後の束ですが、議題2関係の資料6、阿倍野区の都市景観資源の審査結果についてとなっております。

これらのうち、参考資料につきましては、委員限り資料となっております。

以上になりますが、お手元の資料で不足等ございましたら、事務局までお申しつけください。また、お配りさせていただいている資料とは別に重点届出区域の候補である建築美観誘導路線の沿道で実施しました色彩調査の結果と美観誘導路線沿道のまちなみの連続写真を窓際に設置しておりますので、委員会終了後に御確認いただけたらと思います。

それでは、これからの議事進行につきましては、澤木委員長にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○澤木委員長

皆さん、こんにちは。

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは、議事に入ります前に、都市景観委員会運営要綱3の（3）に基づきまして、議事録署名人を指名させていただきたいと思います。本日は、田中委員と山納委員にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

それでは議題に入りたいと思いますが、本日の議題は大きく1番の今後の景観施策のあり方について。それから、2番目にその他として、都市景観資源検討部会における都市景

観資源（阿倍野区）の審査についてということで、大きく2つ議題がございます。1番から順番に進めていきたいと思いますが、事務局の説明に入る前に、まず、資料1に今回の主な論点を整理いただいていますので、こちらをご覧くださいと思います。大きく5つの項目に分けていますけれども、今日の委員会の中で御議論いただきたいのが、主には上から4つ目までですけれども、特に1から3がこの後、御説明いただきます資料2に関する部分で、論点の1としまして、景観形成の取り組みの方向性（景観施策の体系）、これについて資料2にあるものでいいかどうかを御議論いただきます。このあたりは、何回も御議論いただく中で、大分、体系として整ってきていると思いますけれども、景観形成の目標・基本方針及びこれらの達成に向けた施策体系となっているかどうかといった観点から御意見をいただければと思っています。

それから、2番目が建築物等の景観誘導についてということで、これに関しまして、市域を大きく4つの区分に設定する案が出ていますけれども、景観計画区域の細分化をしていく、その区域設定の考え方についてとか、重点届出区域を指定する、その考え方について、こういうところについて特に御意見を求めたいということです。よろしくお願ひします。

それから、3番目が今回新たに導入する景観法の制度ということで、景観計画（広告物基準）と屋外広告物条例の連携についてという観点。それから、景観重要公共施設の指定の考え方について、こういうところについて御意見を賜ればと思っています。

それから、（4）番はこれらを「今後の景観施策のあり方について」という形で、文章に取りまとめていく案で、これは後ほど御説明があると思いますけど、資料3になります。これについては、次回また、これを確定するような形で議論をさせていただきますけれども、それに先立って構成、内容等が適切かどうかというところで御意見をいただければと思います。

それから、その他として（5）番に書いてありますが、3月に（4）の取りまとめをしていく予定ですが、それを踏まえて今後、具体的に景観計画や景観条例を見直すこととなります。そのためにその他の一つ目で、景観計画改正案（事務局たたき台）ということで、骨子案を提示いただいています。条例も都市景観条例改正方針案についてということで、それぞれ資料4、資料5で、提示いただいていますので、これについても併せて御意見をいただければと考えております。

こういった論点を頭に置きながら、事務局の説明の後、1番から順番に御意見を賜って

いこうと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

今回の資料ですけれど、これまで御審議いただいた内容を含めて、かなり分厚くなっておりますけれども、事務局から本日の論点に関する部分、あるいは変更点などを中心に御説明いただければと思ひています。

それでは、事務局から資料の説明をお願ひいたします。

○事務局

資料説明

○澤木委員長

説明ありがとうございました。

ただいま事務局より今後の景観施策のあり方について説明をいただきました。これに関して御質問、御意見をいただきたいと思ひますけれども、下村先生が2時に退室されるということですので、論点の順番に議論を進めていくに先立って、包括的に下村先生から御意見を先に承っておこうと思ひますので、論点に限らずよろしくお願ひいたします。

○下村委員

ありがとうございます。何度か拝見している中で、随分スリムアップして、ストーリーが見えるようになってきたというのが全体的な感想です。中身というより、具体的に今後の景観計画の中で決めていく内容かもしれませんが、これはどれぐらいの規模で、多分大規模なものを考えておられると思うんですが、確認申請の中で景観のチェックをするのか、別途景観だけで申請書を上げてもらうのか、今まで美観誘導の指導もされてきたと思うんですが、どんな運用で取り扱いをどうするのかということと、どれぐらいの年間件数を想定されているのかということをおお体でいいので、教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○事務局

大規模に絞って言うと、資料の4の4ページのところに届出対象行為の案を出しております。対象規模といたしましては、敷地面積2,000㎡以上、かつ高さ10m以上、もしくは延床面積5,000㎡超かつ地上6階以上で特段変えておりません。これに該当するものについては、ほかの協議とも重複はするんですけれども、景観に協議に来ていただくことを考えております。件数としては、今、年間160件程度の届出を受けております。大規模については、厳格に運用することで、ひょっとしたら増えるかもしれませんが、劇的に変わるものではないと思っております。次に建築美観誘導制度、重点ですけれど、年

間70から80位の届出を受けております。これにつきましては、広告物の規制を少し厳しくすることで、件数が少し増えてくるのではないかと考えております。オーダー的にはそんな感じです。

○下村委員

あと1点。今後の話になると思うんですが、具体的な重点の線を引く必要が出てくると思うんです。そのときに違うところで議論になったのは、幹線道路なんかで引いていくと、両側で誘導基準が変わるところが発生してくる可能性があるんです。そういったところを検討課題として、例えば都計道路の25m以上かそれぐらいのところを指定すると、両サイドを指定できたり、御堂筋のときもそうだったと思うんですけど、回り込むあたりの建物をどうするか。基準をどうするか、道路際をどうするかという議論もあったと思うんですけど、その辺の重点の考え方を、今日結論を出す必要はないと思うんですけど、これは意見として聞いていただきたいのですが、その線を引く話というのは、またどこかの場で議論していただくことを望みます。

○事務局

ありがとうございます。今、御指摘いただきました、重点地区の決め方、あるいはその大規模でも境界を道路で切った場合の右と左をどうするかはずっと我々も悩ましく思っております。今、御意見いただきましたように、改めて協議というか相談させていただける場を設けたいと思っております。今いただきましたように、例えば、道路境界から何mという幅を持たせてもいいんですけど、それを運用したときに、届出対象になるのかならないのかといったところのわかりやすさをどう確保するのかというところが一つ課題になってくると思いますので、また改めて御相談させていただければと思います。ありがとうございます。

○澤木委員長

よろしいですか。また、お気づきの点があったら、書面等でも結構ですので、コメントいただければと思います。

それじゃ、皆さんに資料1の論点の流れで区切って意見をお伺いしていこうと思っておりますが、最初に1番の景観形成の取り組みの方向性（景観施策の体系）についてということで、資料2で言いますと41ページ、42ページあたりの枠組み的な話ですけど、このあたりについての御質疑、意見をいただきたいと思っております。前のほうは余り修正がないということでしたが、目標は迷っている部分もあるので、42ページより前でお気づきの点等ご

ございましたらまず、御意見いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○嘉名委員長代理

よろしいでしょうか。

○澤木委員長

嘉名先生、お願いします。

○嘉名委員長代理

方向性についてはこれまでずっと議論してきているので、皆さんの意見も取り入れていただいて、私は余り違和感がないと全体の印象として思っています。例えば、先ほどの景観形成の目標ですけれど、いいとこどりでないのですが、案1が正式目標で、案2がサブタイトルみたいな、そういうのが適切なんじゃないか、それが妥当じゃないかという印象がありました。

それから、この体系については今まで議論してきたので、違和感がないとは思っているんですが、(5)に絡むことかもしれませんが。

○澤木委員長

論点のですか。

○嘉名委員長代理

その他になるのか、方向性になるのか、私もよくわからないのでお伺いしたいと思うんですが、今ちょうど建築学会で、全国の景観行政の調査をしまして、それでわかってきたことですが、景観条例のたてつけが、いわゆる法委任条例と実施条例で組み立てられているんですけど、景観施策の全体像が、多くの自治体で、いわゆる法委任条例だけでは成り立っていないというのが現実で、いわゆる実施条例部分が含まれている。実施条例部分と法委任条例の全体で景観施策の体系というのがありますよ。今回も大阪市もそういう枠組みになっていますよね。そのときに課題になるのが、いわゆる景観計画は、法委任条例部分だとすると、景観計画には、いわゆる実施条例部分が含まれない構成になると。それで多くの自治体が位置づけているケースは、例えば景観形成基本計画とか、そのような名前をつけて、それを景観条例の中に位置づけて、それが市の景観の上位計画、マスタープランという位置づけをしているケースがあるわけです。これがいわゆる法委任条例と実施条例との関係で、難しい部分なんですけど。大阪市の場合は、今まで推進計画というのがあって、いわゆる景観計画に書かれていないことも推進計画に書いておけばいいという感じでやっていたと思うんですが、今回、推進計画は削除ですよ。

○事務局

立て直しということです。

○嘉名委員長代理

そうなると、まさに今回の資料2のような、今後の景観施策のあり方について、あるいは資料3かもしれませんが、景観委員会からの答申にまずなるということですが、それを受けとめて、大阪市の景観施策の行政計画というのはこれですというときに、景観計画だけでうまくいくかどうか心配になったんです。先ほど申し上げた景観形成基本計画のようなものが必要にならないかというところが少し気になった。中身的にはおおむね今まで議論してきているので、違和感はないんだけど、位置づけるときにこういうマスタープランに基づいて施策、政策をやっていますと言うのか、そのあたりが気になったというのは、重点地区のところで確か行政誘導型という言葉がありましたよね。

行政誘導型という言葉は、方針があって、それに基づいてやるということですよ。ということは、例えば、他の言い方だと上位計画適合型とか、そんな言い方もあると思います。要は、この計画に基づいてやっていると言うと、説明しやすいと思うんですが、行政誘導型とか行政指導型という、じゃあ、根拠は何なのかと言われたときに、窮することはないんだろうかというのは気になったところです。だから、(1)と(5)の中間みたいな話になるんですが、それが大きな話としては気になりました。今はとりあえず(1)の話ですよ。

○澤木委員長

いいですよ。

○嘉名委員長代理

じゃあ、とりあえずそれです。

○澤木委員長

ありがとうございます。今の嘉名先生のお話は、42ページの右側の表のところに景観法とか景観条例、要綱等の位置づけの一覧表があるのと、資料4の1ページに景観計画をこれからこんなふうに改正していくというイメージで、現行の景観誘導制度等と改正景観計画で、条例とか要綱の部分がどんなふうに移り変わっていくのかというのがあって、この辺を見ながら回答いただくとわかりやすいと思っています。事務局いかがですか。

○事務局

そうですね、資料4については、景観計画のことしか書いていないのですが、先ほどの

42ページの右側の表に景観法の部分はここ、条例の部分はここというのは書いていますが、これを今後、施策を進めていく上で、市民の方や事業者の方に向けて、景観施策の全体像を説明するものを、何と呼ぶか、景観形成基本計画と呼ぶかどうかわかりませんが。

○嘉名委員長代理

内容的にはほぼこれですよ。これがどこに位置づけられるかということだけなんです。

○事務局

実施に移ったときに単純に法と条例になってますだけでは、わかりにくいというのは、改めてそうだと思います。

この景観計画だけで全てが語れるのかというと、これは全体の一部であって、景観計画を抱合するマスタープランが要するという事だろうと思います。今の行政のはやりで言うと、マスタープランはつくらない傾向になってきて、一方でそれに対する反省点も出ていまして、今、確かにそこは我々としても、抜け落ちていたところはあると思っております。改めてもう一度、法に基づくいろいろな位置づけも踏まえて、先ほどの重点地区をどうやって導き出してくるのかということも含めて、改めて次回までに検討させていただきたいと思っております。

○嘉名委員長代理

何らかの形で位置づいているのが一番いいというのが私の意見で、幾つか方法はあると思うんです。他の自治体で多い景観形成基本計画とするのも一つの方法だと思うし、景観計画は法委任条例部分としていますが、別に実施条例部分があったって構わないんですよ。だから、景観条例の中で景観計画を位置づけて、その中に法委任部分と実施条例部分の両方がありますと。全体の方針は実施条例部分に記述されているとか、工夫の余地はある気がするので、位置づけというのはあったほうがいいという印象はあります。

以上です。

○事務局

景観計画を議論していく中で、今嘉名先生がおっしゃった後者のような、この中に盛り込む部分を幅広くとらまえてやっていったらどうかというイメージで、漠然とやってきたことは事実ですけども、改めてしっかりと意識して整理させていただきます。

○澤木委員長

ありがとうございます。方針みたいなものは抜けてしまわないようにということですよ

ね。景観計画、景観法上の景観計画はある意味では手段なので、手段だけが並んでしまわない形の扱いが必要だという、これは事務局に検討いただくことにしようと思います。中身としては、資料2に盛り込まれている内容だとは思いうんですけれど。

その他いかがでしょうか。全体的な枠組みとか体系という点で、お気づきの点があればお願いしたいと思いますが。

そしたら、もう少し細かいところも含めて論点2と3にまいりましょうか。論点2は、建築物等の景観誘導ということで、ページで言うと資料2の43ページあたりになってきます。景観計画区域の細分化の区域設定、43、44に2つの案を示していただいているところと、それから重点届出区域をどう指定していくかというところ。下村先生からもコメントありましたけど、45ページ、46ページのところです。このあたりの考え方について、コメントでも結構です。御質問でも結構ですけど、よろしくお願ひしたいと思ひます。いかがでしょうか。

○嘉名委員長代理

改めて質問ですけど、43、44の考え方みたいなものを、説明していただけますか。

○事務局

先ほどもちょっと触れましたけど、43ページの絵は、これまでの景観構造を踏まえて、地形地物で区切っていったもの。ただ、実際に我々が境界のところを見に行ったりすると、本当にここで分かれるのかというのが、非常に難しいんです。すごく悩ましくて、やっぱりそこで境界を切ったからにはなぜそこで切ったかという説明が求められると思ひまして、そういうことを考へている中で、これまでも用途地域で境界を設ける方法もあるという意見もいただひいたので、それをまず都心部について用途地域が商業地域のところでやってみたらどうなのか。43ページの絵は、これまでの景観特性を踏まえて、どっちかという現状を踏まえた、いわゆる現状を落とした形になっていると思ひます。用途地域というのは、今後の開発とか土地利用の変更とか、そういうものを表しているとも考へられますので、将来的な可能性も踏まえて落としたものだと。とりあえず、一般的に都心というところ、大阪環状線の内側という認識もありますので、それをベースに、大阪駅と阿倍野、天王寺、弁天町については外にも広がる形で、あと新大阪についても外に広がるような形で、これについてもまだ細かく見ているわけではないんですけども、一応、落としてみたものと。都心部については用途地域が商業地域のところで落としてみたものです。

この線引きはやっぱり非常に難しく、本来こういう線って存在してないはずなんで

す。ただ、事務的には線を引いたほうがやりやすいところがあって一応、引こうとしていると。

しかし、現実には存在しない線を入れようとするわけですから、現地に行けば行くほど、悩みが深くなっていくところがあります。

43ページは建物の土地利用をベースに線を引いています。ただ、こういう引き方をすると、都心部が非常に限定的なエリア取りになってしまうんです。それに対して一般市街地については、何となく都心的な場所や木造住宅が広がっているエリアまで非常に幅広いエリアになってしまう。であれば、環状線の内側が概ね商業地域になっているということで、余り現状に縛られずもう少し大きく括ってみたらどうなるんだろうかと。そうすると、大体今の用途地域ともイメージが合うなということで、試しに入れてみたのが右ということです。

この中間ということもあるかもしれませんが、このあたりも他都市の事例や先生方にお知恵ございましたら、合わせてお教えいただきたいと思って、あえて2つの案を提起させていただいております。

○澤木委員長

という説明を聞かれて。いかがでしょうか。

○嘉名委員長代理

私の意見だと比較的44に近い形がいいと思っています。もちろん、景観形成区域の方針の書き方にも影響を及ぼすと思うんですけど、前段の整理からも、やっぱり地域性に特に重点を置いていると。大枠の考え方としてはもちろん4つの大きな区分があるけれど、極端な言い方かもしれませんが、どのエリアに入ってもそれなりに地域性は考慮されるということであれば、どちらに入る建物かと運用が難しくなるのは、とても大変じゃないかと。現実的には、今回も商業地域を厳密にくりぬいているわけじゃなくて、沿道型が外れていますよね。沿道型は切っているけど、でも一団の商業地域はまとめておられるということなので、これは運用しやすいかなという気はします。議論の余地があるとなれば、多分、都心景観形成区域だろうと思うのですが、これについてはもう少しランクがあるという議論はある気もしますが、運用上のことも考えると、44ページに近いほうがやりやすい気がします。

以上です。

○澤木委員長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

44ページは、沿道型の商業地域は外していると言いつつ、線上の部分まで覆っているのは基準が。

○事務局

まだ一部残っているので、整理できてない部分があります。

○澤木委員長

橋寺委員、どうぞ。

○橋寺委員

ぱっと見たときに凡例では4つの色分けなんですけど、上町台地と都心形成が重なってしまって、沿道型が入っているせいで、すごく何か意味ありげな形に見えて、どう読んだらいいのか迷うという。具体的に明確なエリアを囲わないといけない面も多々あると思うんですけど、基本的なことを示す図だとすれば、そのあたりが見えやすいようにする整理も必要という気がしました。具体的な明確なエリアを示したもののなのか、それを示しつつも、もう少し大きい包括的なことを示そうとしている図なのかという整理が必要というのは、これを見て思いました。

○長町委員

私もこれについていいですか。実際の施策は、ストリート型やエリア型で運用していくということですよ。これまではストリート型がメインでしたけど、エリア型を採用しながらということですよ。そうすると、実際はこの4つのパターンの中におさまる話ではなくて、ある面の中に幾つもストリートがあったり、面があったりするということだと思うので、大きな方針のためにこの図があるとするならば、私は線が要らないと思うんです。神戸市なんかもそうですけども、ぼやっとしたもので重なっていて、およそこですというやり方で。実際の運用ではっきりストリートとエリアを確定していくのであれば、それでいいと思います。というのは、どうしても44にならざるを得ないと思うんです。いろいろやってみて、44が出てきたというのは、まさに現実に施策を深く考えていくようになってきたということだと思うので、正しいと思うんです。ただ、ぱっと見たときにすごく意味があるように見えるのは事実で、細かい線の真ん中の黄色は何だと考えてしまうので、その辺はぼかした案はいかがですかというのが意見です。

○澤木委員長

いかがでしょうか。この景観形成区域4区分をどう使っていくかということですよ。

その宅地がどちらに入っているか確定しないといけないレベルのものなのか、ゾーンでわかりやすく方針を示すためのものなのか、再確認していきたくと思いますけどいかがでしょうか。

○事務局

この43、44の図につきましては、これで届出をいただくための図と考えていますので、もちろん今非常に複雑なところがあるので、そこは整理してわかりやすく、割り切りも含めてしていかないといけないと思っています。実際には、これはとりあえず入れてみた絵になっているので、そこはもう少し今長町先生からご意見いただいたように、一定割り切った絵はつくっていかうと思っています。今、この上町台地のところに、赤い都心とオレンジの上町台地が重なっているところがございます。そこについては、重なっていると考えていまして、両方の方針、基準を見ていただくと。それぞれそんなに齟齬はないと思っていますので、そこは両方見ていただくと、今のところは考えております。

○澤木委員長

どうぞ、阿部先生。お願いします。

○阿部委員

重点届出区域に指定された場合の法的効果と、この景観形成区域に指定された場合の効果は全然違いますよね。重点届出区域は届出義務が生じて、それにかかるか、かからないかによって、地権者のしなければいけないことが大きく違ってくるわけですがけれども、こちらの景観形成区域に関しては、長町先生がおっしゃったようにざっくりとしていても、地権者にとって入るか入らないかは大きな違いはないということなのか、大きな違いが出てくるのか、そこが非常に重要なポイントだと思うんですけど、その点はどうお考えですか。

○事務局

44ページの色づけでの景観形成区域で、赤いところと緑のところはどれだけ違うかという、方針や基準で微妙に書き分けていますけれども、重点届出区域と比べると、大きく異なるというものではないです。

○嘉名委員長代理

長町先生がおっしゃった話に補足説明しておく、景観計画には必ず線が引かれています。神戸市にも線が引かれています。神戸市の場合は、御存じの方も多いと思いますが、市域全域が景観計画区域ではありません。幾つかの地域だけを抜き出しているタイプです。

市域全体が景観施策の対象エリアにはなっていますが、それをどうやって担保しているか、その曖昧なゾーニングは、景観計画ではなくて、景観形成基本計画という別のマスタープランでやっている。景観計画は、行為の制限、私権の制限に関わるので、境界を明解にしないと、後出しはダメという話に関わってくるので、やっぱり景観計画では境界は明示すべきだと思います。どこにするべきかという議論はもちろんあります。ですので、ぼかして景観計画の境界を設定するというのは難しいと思います。

○長町委員

これは景観計画の線だという話ですよ。

○嘉名委員長代理

これがいいかどうかというのはあるけれど、ぼかすというのは難しいと思う。ただ、このいびつな形でいいのかというのは、議論の余地がある。

○澤木委員長

運用のしやすさと、市民側のわかりやすさの両方がちゃんと客観性を持って通じるような方向を考えていただくのがベターですよ。

○事務局

事務的な面で言うと、もともとの43ページが、本当にこれでいいのかという疑問が出てきてつくったものが44ページでして、43ページは現場も見て整理をしていますけれども、44ページは急遽つくったところでまだ整理ができておりません。こういう迷路のような線が入っているのは、もう少し整理をする必要があると思っています。

○澤木委員長

どうぞ、中嶋委員お願いします。

○中嶋委員

私も44ページの図は、やはり用途地域とか容積率といった既存の明確な数字が出ているものをベースに線を引いたほうが、その土地の人にとって非常に便利だと思います。なので、少し乱暴であっても、そういうもので大きく囲っておいて、運用をしていく中で、実情に合わないものに変更を加えていく。最初に決めたものが全てではなくて、やはり段階、段階できっちり見直して現状に合うように線を引き直していく。そういう作業をすることによって、だんだん輪郭線が見えてくるというのが本来なのかなと思いますので、44ページをもっとわかりやすく整理し直していただいて、そこからスタートしてどんどん変えていくのがいいのではないかと私は思います。

○澤木委員長

ありがとうございます。まとめたコメントをいただいたと思うんですけど。

その他の点いかがでしょうか。今、論点2のところでは景観計画区域の設定の議論になりましたけども、重点届出区域の指定の考え方も含めていかがでしょうか。

○嘉名委員長代理

今度は細かい話ですけど、景観形成区域と重点との関係が気になっていまして、非常にわかりやすく言うと、御堂筋を例えて挙げますと、御堂筋沿道は重点ということですが、沿道ではないけれど御堂筋から見えるタワーマンションは、都心景観形成区域には入っているけれども重点ではないと。そういうものに景観配慮を求めるような運用ができるのでしょうか。それは多分、河川沿いも同じ問題があると思いますし、あるいは、上町台地のあたりも沿道商業といわゆる寺町との関係ですか、こういうものも該当するかもしれませんが、ここは沿道ではないけれど、それに配慮しなさいといったことが重点ではないけれど位置づけられるのかどうか教えていただきたいと。

○事務局

今、おっしゃった点につきましては、資料4の6ページをご覧くださいと思います。現時点では今、御意見いただいたように、重点地区にはならないけれども、道路軸とか河川軸から見える裏側の高層建物を誘導できないかということは考えていまして、今の時点では6ページの上から2つ目の箱に景観形成軸と記載しているところですが、そこに河川軸、あるいは道路軸に沿ったところで、例えば道路景観形成軸沿道では、当該道路から見える建築物等は当該道路からの見えに配慮し、過度な圧迫感やばらつきのあるスカイラインを生じさせないようにするとか、方針レベルではありますけどもこういった表現を盛り込んで、事業者さんに配慮していただくことを今のところ考えております。

○嘉名委員長代理

わかりました。

○澤木委員長

よろしいですか。河川もこういうのを書いておいてもらうほうがいいですか。「また、～」以降は道路しか書いてないので。

○嘉名委員長代理

そうですね。

○澤木委員長

特に、昨年議論しましたが、デジタルサイネージとか広告物が気になりますよね。圧迫感やばらつきだけではなくて、書けるならもうちょっと踏み込んで書いていただければというのはあります。

○事務局

河川の表現と広告物の書き方はまた考えたいと思います。ありがとうございます。

○澤木委員長

中之島は、対岸まで入っているんですけど。重点届出区域ですけど。

○事務局

今は入っていません。

○澤木委員長

今は中之島だけですね。先ほどの下村先生の御質問にも関係しますが、島の両側というか、川に面する部分、対岸ですよ、中之島の。このあたりをどうしていくかが結構重要だと思いますので、そこもまた考えていただければと思います。

○事務局

はい、わかりました。

○澤木委員長

その他についてはいかがでしょうか。

どうぞ、田中委員。

○田中委員

今の重点届出区域の、緑色の将来的な重点届出区域の候補というのは、どういう基準で、将来的はいつ、どの時期を想定していらっしゃるのか。

○事務局

46ページで緑色に着色しているところですけども、1つ前の45ページの右に表がございまして、そこで事務局なりに都市再生の戦略的位置づけとか、開発行為の動向、あるいは景観関連施策の実績のそれぞれに○、△をつけさせていただいて、そこで挙がってきたエリアで今回重点届出区域に指定されないところを着色しています。ですので、それぞれのスケジュールについては、今のところ考えは持っておりません。

○田中委員

むしろ、この中でも将来というよりほんとうは今重点にしたいとか、そういうものはないんですか。重点地区に指定すると、やはりいろいろ規制がかかるので、最初から余り広

いエリアはできないとは思いますが、例えば、大阪城の周りが将来的にということになるのかという感じもするので、そのあたりはどうですか。

○事務局

そうですね、やはりそのエリアにおける理解とか、そういったものが高まっているところからだと思います。今はざっと色を塗ったので、100年経っても難しいものもあるかもしれませんが、その辺は今後、引き続き見ていけたらと思います。

実際の指定に当たっては、特にこれからの時代は、行政が一方的にここは届出区域で、ルールはこれですと決めるのはなかなか難しいし、そうすべきじゃないと思っています。ですから、まちづくりとしてのその場所の位置づけと、それから受け皿というか、地域でそういう議論をして、地域でルールをつくっていただいて、地域の中で協議していただくのが究極的な理想だと思います。なかなかそこまで一足飛びにはいかないでしょうけれども、そういう団体も今あればいいですけど、なければそれを掘り起こしていくような作業も同時並行でやらないと、実際には難しいと思います。

○澤木委員長

今の話に関連して。

○長町委員

今のお話よくわかるんですけど、例えば、今ざっと将来的なというので港湾部の天保山を塗っていただいているんですけど、USJの周りですね。駅前だけが商業で、あとは港湾用途になっていて、先日も工場ができたんです。USJのにぎわいを生かせずに、このままいくと、地区の用途と現状に余りにもギャップがある。他は、深刻な問題って余りないと思うんですけども、港湾部の中はそのままでもいいのかみたいなことはあるから、こういうところでどうしたらいいか私にはわかりませんが、USJのところは前々からひっかかっているんです。

○澤木委員長

今の御意見は、候補のこの表の中にUSJを。

○長町委員

この重点届出エリアの将来像のところ、港のエリアは水色エリアじゃないですか。要は臨海関係の区域が一括りで、用途としてもほとんどが港湾用途なんですね。前の資料で見ると、部分部分でこういうふうに、黄緑色が出ている。

○澤木委員長

築港・天保山は塗ってあるけれどUSJのところは着色されていないので、そういう候補に入れてほしいという御意見でいいですか。緑で塗ってほしいと。

○長町委員

そういうふうに点検する必要があるのではないかと。特に港湾がギャップがあるので、実際できていくものと。

○澤木委員長

そういう御意見でいいですね。

○嘉名委員長代理

浦安はTDLがアーバンリゾートとかいって、やっぱり分けています。

○長町委員

分けているんですか。周りにごみ処理場があと3つぐらいできたら、USJも嫌ですしね。そういうことが起きないかという話ですけど。どうでしょうか。

○田中港湾局営業推進室長

臨海部を開発している港湾局です。まず、御承知かどうかなんですけど、ベースはもともと港湾エリアというのは、地区計画をかけて整備をしていますので、このコスモスクエアも再開発地区計画をかけていますし、USJのところも此花西部ということで地区計画をかけて、規制を当然やっております。ただ、我々ももともとUSJを核として情報映像産業が周辺ににじみ出すというような理念があったのですが、きているのはMBSとNTTだけです。ただ、今ようやく少し変わってきたのは、USJに人が今年は1,400万人ぐらい来るといことなんですけど、周辺にホテルがどんどん立地してきていまして、今年5棟目ができて、さらにまだ2棟できるという話があります。それと、ユニバーサルシティウォークも南側のホテルができてほぼ完成したので、今後、それらが景観も含めてどうなっていくのかというのが少し我々としても今後の将来性を見ていこうと考えているところです。工場というのは私も知らなかったんですけども、北側の大阪ガスとか、割と土地がある部分はあるんですけども、ただ、今残っているのはほとんど南側の住金と日立造船の用地ですので、そこもいろいろと計画を聞いている中では、リゾート系といえますか、今一部ホールみたいなものの工事を始めますけれども、そういうものが開発していて、当然入れていただくのは議論して、将来ということでは構わないんですけども、地区計画で縛っているの、我々としてはそっちで規制していこうかなと思っているところです。

○長町委員

もちろんそれは存じ上げていて、すぐ付近に新築のごみ処理施設ができたんですよ。地区計画でいくとオーケーなエリアだから、それはみんなオーケーと言ったけれども、委員の先生でもひっかかった人がほかにもいたので、やっぱりそれは地図上で見るといいのかなと思ってしまうので。

○田中港湾局営業推進室長

それはこの地区計画の中ですかね。

○長町委員

地区計画のもちろん外ですよ。地区計画で決められた外にですけど、付近なんですよ。あれは何でしたっけ、嘉名先生覚えてませんか。

○田中港湾局営業推進室長

ごみ処理施設というのは、申し訳ないですが我々聞いてないので、ただ地区計画の中でできるのであれば、私どもにも確認が来ますが。

○長町委員

審議会の審議事項だったんですね。

○嘉名委員長代理

都計審の。

○長町委員

ごみ処理場ができて都計審でオーケーとなったんですけど、気にしていたんです、それは。皆さん気になった。最終的には法律上問題ないので。

○田中港湾局営業推進室長

産廃施設ですかね。

○長町委員

ごめんなさい、ごみ処理場じゃなくて産廃施設ですね。

○田中港湾局営業推進室長

ただ、立地的にそこは地区計画の外れている西側ですよ。

○長町委員

西側です。

○田中港湾局営業推進室長

西側は、工場地帯で我々も制限をかけていませんので、ある意味では、景観とはかけ離

れている、そういうエリアになっています。そこはほとんどが工場で、重化学工場もありますし、タンクもある。そういうエリアになっています。そこを規制していくとなると、また少し違う議論をしていかないといけないと思いますけど。

○長町委員

それで納得していると思うんですよ。皆さんも納得したから通っているんですけど、将来的にそこににぎわいの港湾をつくっていく、例えば世界の港湾の都市、上海とかシンガポールなんかだったら、今は基地とか工場みたいところに絵が描いてあって、将来はこうしていこうみたいなものがあるじゃないですか、そういう意味でいくと、今はまだいいと思うんですけどね。新しいものが建つのが怖いというか、もうそうやっていくのは目に見えていて。

○田中港湾局営業推進室長

あのエリアは皆さんがお分かりなので議論をさせていただいて、あのエリアでそういった新しいものができるというのはなかなかないんです。

○長町委員

ないですよ、ないけれどできましたので。

○田中港湾局営業推進室長

いや、それはだから産廃施設だからですね。

○長町委員

産廃施設。

○田中港湾局営業推進室長

ほとんどの方がもう住んでおられないので、産廃施設のニーズがあるのであれば、そこは問題ないと思っています。我々また都市ゾーニングというのは今後考えていきますが、今のおっしゃっているのはこのあたりですので、そういう意味では景観施策とか、まちづくりの施策とかには離れているようなニーズの地域です。

○長町委員

おっしゃっていることはよくわかります。投げかけているのは何かというと、USJみたいに世界的な集客施設ができていくエリアがこの島のここにあるわけですよ。

○嘉名委員長代理

だから、これに少なくとも緑は塗っておいたほうがいいという議論がそもそもあって。

○長町委員

こちらを頑張るといふのは、それも全然ブラボーでオーケーですけれども、そのすごい世界的な施設は放っておいて、ごみ処理場も産廃施設もできていいと言っていることは、今は法律上でオーケーですけれども、それでいいんですかというの、誰かが言わないと。ずっとそれでいいんですかという話を。

○田中港湾局営業推進室長

議論をしていただいた点で、その此花西部臨海地区の地区計画と違うエリアで、今工場とか、ほんとに産廃施設が幾つもあるところを、ここで色を塗るかどうかというの、少し議論をしておいたほうがいいかなと思います。

○長町委員

それは検討していただければいいと思います。ただ、さっき中嶋先生がおっしゃったように、どんどん更新されていて、物事は刷新されていくと。今、此花地区ですか、あそこの都市計画が最初に決定した時点でU S Jがこうなるとは思わなかったということがあるわけですね。

○田中港湾局営業推進室長

いえいえ、もともとそのあたりは、こんな議論は別で後でしたほうがいいのかもかもしれませんね。

○長町委員

ごめんなさい。

○田中港湾局営業推進室長

同じようなところが臨海部のあちこちにありますので。U S Jのすぐ横と言いつつも、そこはある意味、我々としてはそれを認めているエリアですので、そこをどうするかというのはここで議論していただければいいんですけれども、じゃあ、ほかのエリアもそういうふうな景観でしていくのかという議論が出てくると思うんです、やるとすると。

○長町委員

この議論はここですべきじゃないのはわかっているんですけど、U S Jぐらい強い集客をしている場所はほかにはないじゃないですか。

○田中港湾局営業推進室長

それは横にそんなものがあっても来ているんです、あそこは囲い込みですから。

○長町委員

日本で最もインバウンドしている場所を放置しているみたいな話ではありますよ。

○田中港湾局営業推進室長

決して放置しているわけではなく、それでいいと我々は思っていますので。

○阿部委員

1点だけいいですか、今のお話で。

○澤木委員長

嘉名先生まだよろしいですか。

○嘉名委員長代理

どうぞ。

○阿部委員

今の話で、景観形成的な話と用途指定の話は、完全にリンクしてないんですよね、法律です。そこはリンクしてなくて、特に景観的な発想だと、眺望景観みたいに、遠くにあるタワーマンションだけど、道路から見えるのと同じパターンでU S Jから見えちゃうみたいな。見えるものに対する規制というのは、法律は弱いんですよね。用途としては、こういう地域だから産廃施設でも何でも建てられちゃうという、その用途をどうするかということと、その見え方をどうするのかということが完全にリンクしてないのが問題であって、あともう一つ重要なポイントとしては、今あるものをほとんど全て既存不適格にするような形で、用途地域の指定替えをして、将来相当大規模に誘導していくということを本気でやるかどうかというのは、結構大きな問題としてあると思うんですけども。まずその1点目の建築系の用途規制とその景観的な発想とのリンクというのは、かなり難しいなという気が実際にはします。

○澤木委員長

これは景観委員会なので、景観に関する部分でどれだけ配慮できるかという、それでこれを緑に塗って、地区計画の範囲より広い範囲で検討していくということであれば、そういうものが景観を契機にスタートして、ゾーンのあり方をどうするかとか、土地利用を用途地域を含めて多分、工専の場所ですかね、工業専用地域。準工ですか。

どうぞ、中嶋委員。

○中嶋委員

都市計画と景観をどう重ねていくかというときに、大阪市だけじゃないんですけども、眺望とかランドマークとかアイストップとか、そういうことに対する規制というのはやはり景観法の中ではできないので、自主条例とされているところが多いんですけども、そ

ういうものを今のところ要素としていないというのが問題で、例えば、そのU S Jの視点場という考え方もありますけど、眺望があればどの範囲で景観的な規制をかけていくかという、そういう視点場を設定して、その視対象が何なのかとか。例えばもう高層ビルが建ってしまったのですが、大阪だとやっぱりある通りから望む大阪城の姿というのはとても大事で、その沿道に対してどういう規制を掛けるか、視点場からどう見えるかということを考えていくとか、あるいは上町台地の坂から西を見たときに、夕日が見えるであったり、海が見えるであったりとか、そういう何か眺望視点場というのが入ってくると、後で出てくる景観重要公共施設なんかもそうなんですけれども、そういうものをどう見せるかという、そのものを指定して守るとか大切ですとしていくのは重要なんですけれども、それよりもそれがどう見えるかということを守っていくことが、もう一つの課題としてあるということで、これはこの中ではまだ触れられてはいないんですけれども、将来的にはやはり戦略的に考えていかないと、気がついたときにはどこからも大阪城が見えなかったり、どこからも海が望めないということが起こってくるのではないかと危惧しています。

○澤木委員長

ありがとうございました。いろいろ課題がまだあるというふうに、出てきているんですけど、U S Jのところは私も事務局とのお話の中で、ないんですかという指摘をしていた場所でもあるんですが、私の視点はむしろ地区計画がしっかりと計画されているので、こういう位置づけで持ってくるのではないかという話だったんですけど、長町委員の指摘は、その周辺のところ、眺望景観で影響が出るんですかね、その産廃施設は。地域イメージの問題ですかね。

○長町委員

その産廃施設自体は何も問題ないです。もし、そこにものすごい背の高い産廃施設ができたという。

○澤木委員長

そういうものが出てきたらということですよ。そういうものを制御できるような、今の法の中ではすり抜けてしまうのではないかというところを、景観の立場からどのくらい書き込めるかというか、さっきの資料4の各ゾーンの、特に臨海のあたりでそういった注意事項を盛り込んでいくという話になりますかね、具体的には。いかがですかね。

○事務局

U S Jにつきましては、確かにその話がございまして。世界的な施設ということがあって、

そこに景観の位置づけがこの検討資料に入っていないのはいかがというのは、確かにそうですねということで、引き続き検討してまいりたいと思います。

眺望景観につきましては、資料4の7ページ上町台地のページですけど、その真ん中の青いラインのすぐ下に、大阪城公園周辺では、歴史ある景観に配慮した意匠や形態とするとともに、できるだけ天守閣への眺望が確保されるよう視点場の形成を図ると。今、この天守閣について、これで十分か、ほんとうにこれで誘導できるのかという御意見もあるかと思いますが、まずここに書き込む形からスタートします。今のところ、この眺望景観については、まだ天守閣しか入れていないので、ほかに必要なものとか、書き込み方の工夫が要るのかとかいうのは改めて御議論させていただけたらと思っております。

○澤木委員長

ここだと視点場の形成ですけど、今おっしゃっているのは、視点場から見える景観もあるので。

○事務局

今、天守閣の眺望と書いていますけれども、これはやっぱり慎重な議論が要るところだとは思っています。景観だけで、建物の制限ができるかどうかというところは、現実問題必ず出てくる話なので、大枠をつくっていく作業と並行して、実効ある内容にしていかなければならないということもあると思います。それがどういうところなのかというのは、引き続き検討させていただきたいと思っております。

○中嶋委員

その後どこリンクしてやっていくのかということはあるかと思いますが、やっぱり書いておかないと、実効性が担保されていかないという気がいたしますので。

○澤木委員長

はい、山納委員、どうぞ。

○山納委員

この43ページ、44ページあたりの地図を見ていて思うのが、開発のモチベーションを持っている人はこれをどう見るんだろうということで、このエリアの中で開発に関わると、そこは非常に人が集まる人気のある場所だから、お店もうまくいく、住宅も売れるみたいに見えるのか、そこはうるさいから外して開発をしようというふうに思うのかということがあるような気がします。この港湾のあたりなどは、用途を果たさなくなると打ち捨てられたっていうのは変な言い方ですけど、使わなくなった場所をどうしようかと考えて

USJみたいなものということがあるんでしょうけれど、それが非常にうまくいくと、新たにこういう網をかける必要があるという話になっているのかなと。多分、イタチごっこで、開発をすごく進めたい人は、この中に出るのか、外すのかということを考えているし、外した立地が非常にうまくいって、次に何ものかになったときには、そこにまた網をかけないといけないということのような気がします。これは感想レベルの話なんですけど、要は都市に対してどのような資本投下をするのか、インフラに対して投資をするのかということ考えたときに、ここを外そうというモチベーションもある。外した場所が盛ってくるという可能性もある。だから、新たに網をかけると言うんでしょうか、そこが盛ってきて何ものかになってきたときに、新たにここをこういう場所にしましょうということが、今、エリアを決めていますけど、5年、10年たったらこのエリアは変わるとか、ここも網をかけるということをおそらくかなり視野に入れておく必要があるのかなと思いました。それはまさに46ページの緑色の部分であって、それはここがかかっている、かかってないというよりも、こういうことを議論し続けて、更新し続ける仕組みが要るなというのを聞いていて思ったのですが、それはそのようになっているんでしたっけ。

○澤木委員長

これ先ほど、中嶋委員がまとめていただいた部分とも関係していると思いますけど、今後、変更していかなければいけないという部分だと思います。

○事務局

そうですね、地域の実情とか、さまざまな機運とか、そういったものを見ながら随時、変えていくというか、レベルを高めていくというものだと思っております。

○澤木委員長

どうぞ。

○戸田住宅まちづくり部都市空間創造室長

今の将来的な重点届出区域の部分だと、候補地ですね、これは大事なところだと思うんです。USJは当然だと思いますし、IRの部分はどうするかとか、非常に思ったのは、阿倍野、天王寺です。阿倍野ハルカスが出てきているエリアと、それともう一つ新大阪、これはやっぱり大阪の窓口というか、ゲートウェイですし、リニアが将来来るという窓口が新大阪なので、このあたりからエリアに入れていただいたら。あえて言うと、グランドデザイン大阪の部分の東部東地区とかそのあたりも御検討いただければありがたいなど。

○澤木委員長

ありがとうございます。そしたら、時間の関係もありますので、次の3番にも進みながら、御意見いただければと思います。

3番は、今回新たに導入する景観法の制度ということで、景観計画の中での広告物の基準とか、広告物条例との連携、それと先ほども少し御意見出ましたけども、景観重要公共施設の指定の考え方、この辺に関しまして御質問、御意見ありましたらお願いしたいと思います。資料でいいますと、資料2の47ページあたりが中心で、それ以降でお願いできればと思いますけれども、いかがでしょうか。

はい、長町委員、どうぞ。

○長町委員

2つあります。1つは、景観重要公共施設の指定ということで、指定していこうという機運というか流れは非常に素晴らしいと思いますので、先ほどの話とつながるかもしれないんですけど、視点場がないとやりようがないかもしれないので、規制というか、固く守っていくためには、例えば、大阪城が見えるビューは、確実に守るということで行くと、何か所か視点場があって、そこからは必ず見えることということで、ほかが連動してくることになると思うので、この景観重要公共施設を選んだ暁には、それと視点場みたいなものがリンクするみたいなことを検討していただくのがいいんじゃないかと思いました。

○澤木委員長

ありがとうございました。

○長町委員

まずそれが1つです。それで公共という文字が出たので、(3)と違うんですけども、資料全体の中での意見を一つ申し上げたいんです。夜間景観の部分なんですけれど。

○澤木委員長

何ページを見たらよろしいですか。

○長町委員

全般的なところですが、例えば、41ページで、ほかにも出てくるんですけど。資料は非常によくまとめていただいて、これまでこの審議会でも申し上げたいろんな意見も組み入れていただきまして、非常に夜間景観に対して言及されたことが増えたので、素晴らしいと思うんですけども、こうやってまとめていただくとはっきりわかるのが、今回我々が今、ここで議論している景観誘導というのは、基本民に対するものですよね。うまく実現して、この施策が功を奏して、さらに誘導できて、エリアごと、ストリートごとにすばら

しいまちの景観形成が起きると言ったときに、公共がついていけないですよ。例えば、夜間景観に関して言うと、どの道もどのまちも同じような公共照明があるのが今の状態なので。ここで重点エリアに指定されたところについては、夜間景観も配慮しなさいと書かれているんですけども、この書類を見ますと、民のことにに対してフィルターがかけられるというところはオーケーだと思うんですけど、官のことに 대해서는 どうなるのかというのが、書類ができてきたよりわかりやすく感じるようになったことです。例えば、41ページですね、景観施策の展開の方向性で、⑥夜間景観の形成というのと、その前に③公共施設の景観形成というのがあるんですね。公共施設のところで、道路・公園・河川というところに言及していただいたので、これで重点地区は民のことだけでなく、官のことも道路・公園・河川は頑張らないといけないということは見えてきたんですけど、そういう意味でいくと、この⑥も重点的な景観形成を図っていく地区に、例えば、公共施設等のライトアップのほか、公共照明のあり方なども地域の特性に応じた景観形成を図るとか、ライトアップだけなら、演出だけの話みたいになるんですけど、景観の中で一番問題なのはベーシックな状態ですので、そこに公共のことが入ってきますので、今までは重点地区の決定とか、今の議論でも公共のことは入ってなかったんですけど、入ってきますので。うまく仕分けていただいて、公共の施策に対してもこの景観的に縛りがかかっているところはもう一回見直して、ごく普通の白いグレアのある道路照明を船場地区につけないように誘導できるように工夫してもらったらいかがかなと思います。

○澤木委員長

よろしいでしょうか。

この⑥の表現ですよ。公共施設のライトアップと限定的に書いているけれど、そうではなくて、街路照明のあり方とかも含めて読めるようにということですね。

○長町委員

そうです、読めるように。それが出ていると、街路計画を立てるときに検討できると。道路の担当の方が景観施策がかかっているところなので、そのまちにふさわしいことを考えてみようとなりやすい。そこの枠組みも要ると思うんです。ここで議論する話じゃないと思うんですけども、基本的にはこの景観誘導に関して言いますと、民に対して決まり事をつくるのが今やるべきことで、ここで決めることなんですけども、それを運用するための仕組みづくりみたいなことも考えていただく必要があるなと思いました。

○澤木委員長

具体的な運用はその後の景観計画とか、条例での運用という話になって、次年度以降の検討になると思いますけど。

よろしいでしょうかね、以上で。

○事務局

御意見いただいたとおり、通常の街路あるいは沿道の照明ですね。防犯というか安全面が最重要ではあると思うんですけども、その中で心地よい光と言いますか、そういったものが少なくとも重点地区とか景観重要公共施設については、やっていけるように考えていきたいと思います。その辺はまた施設管理者とも相談しながら。

○長町委員

そうですね、重点地区だけでいいと思いますけど、まずは。

○事務局

書き込める内容を調整させていただきたいと思います。

○寺川建設局企画室長

建設局ですけど、施設管理者としては、委員御提案の内容は非常にいい御提案なので、やりたいのはやまやまで、民の施設でもきつとそうなんでしょうけど、そこにどれだけ今持っている財をさけるかということで、重点地区に御指定いただいた場合に、そういった方針や枠組みに従って施設を設計して物をつくる場合に、そういった配慮を、法を逆手にとるとしていただけるというふうな、大きなやり方まで含めて枠組み設定をしていただければ可能になるんだと。そこの担当だけでしてと言われると、非常に難しい。なので、オール大阪で取り組むならそういう整理がやっぱり要るのかなと思います。

○澤木委員長

はい、ありがとうございます。あと景観資源の議題もあるので、論点の4番、5番あたりを少し触れておきたいと思いますが、4番については次回、この資料3の形で取りまとめということで、この委員会としての答申を市長に返すというたたき台をつくっていただきますけど、これをご覧いただいて、何かお気づきの点、論点としては構成、内容が適切かどうかということですけど、これ資料2で議論して、つけ加わるところはまた足して、表現も変えていただくことになると思うんですけど、大筋はよろしいですか。

中嶋委員、ありましたらお願いします。

○中嶋委員

資料3と、資料2の41ページを見ての感想になるんですけども、行政として施策を

どうするかということは、非常に整理されて書き込まれているんですけども、これだけ市民側にいろんなまちづくりに参画していただくということをうたっているのであれば、市民としての役割というか、市民、あるいは事業者はどうすべきなのかとか、市民、事業者もやはり景観形成に協力するというようなことを書き込んだほうがよいのではないかと。これだと市民の啓発とか、まちづくりの団体を支援するという行政側の動きだけが書いてあるんですけども、市民、事業者の役割をきっちり書き込んでいただけるとありがたいかなと。要するに、主体ですね、41ページもそうですけれども、主体が行政じゃなくて、市民が主体となったら何ができるのかという、それぞれの役割をはっきりさせた方がいいという話です。

○澤木委員長

ありがとうございます。委員会の答申として、市民の役割としてこういうところを期待するというのはきちんと書いていこうという御意見だと思います。私も賛成します。

その他、お気づきの点ございますか。

田中委員、どうぞ。

○田中委員

先ほどの景観重要建造物とか景観重要樹木の話と関連すると思うんですけど、資料3の12ページに、保全のためにそういう制度をもっと実効性のあるものにしていくというのはいいと思うんですけども、結局、資料2のところでもメリットとかデメリットは全然出てこなくて、指定されたらいいことがあるのかとか、また、何か制限されるのかというところが出てこないというのは、意味がよく理解されない原因の一つだというふうに思うのと、やはり財源がないので、例えば、ほかの行政だったら改築の補助金を出すとか、いろんなことをして、財源がないのでそういうことができないというのもお聞きはしているんですけども、例えば、寄附金を集める制度をこの中に入れるとか、何かできることがあるんじゃないかという気がするので、そのあたりをもっと大阪が好きな人に参加してもらって景観をよくするみたいな、そんな取り組みが考えられないかなと思ってますので、前例等を調べて検討していただきたいと思います。

○澤木委員長

事務局何かお答えになりますか。

○事務局

はい、景観重要建造物、樹木のメリット、デメリットというのは、この間ずっとデメリ

ットはともかくメリットが見つけられない状況です。寄附金を集めることができるかどうかかわからないですけども、いろいろ情報収集、事例収集もしながら引き続きメリットを見出していききたいなというふうに思います。ありがとうございます。

○澤木委員長

橋寺委員、どうぞ。

○橋寺委員

ちょっと戻るんですけども、この資料3の今のお話というのは12ページの重要な建造物ということなんですけど、その一つ前の屋外広告物ですけど、大阪の場合、屋外広告物さえ名所になるところもあったりして、この扱いは景観にすごく関わると思うんですけど、今回、屋外広告物条例との連携も言われてるんですけども、これは大阪って特にかもしれないですけど、屋外広告物がどういう状態かというのはすごく景観に関わると思うんです。屋外広告物を出したい人から言うと、今後、景観も見ないといけないし、実は扱っているところが違うので、屋外広告物も見ないといけないというのを、もうちょっとシンプルにする。その辺が連携かもしれないですけども、何かうまくいかないのでしょうか。今すぐはなかなか条例が違うので難しいんですけど、将来的には整理しないとトータルな景観というのは難しいというふうに思います。

○澤木委員長

答申としてはその辺も整理すべきとは書けると思いますけれども。

○事務局

まず、大阪市は景観担当する局と広告物を担当する局が違ってしまっていて、当然、条例も違う、審議会も違うというところがあります。施策も両側が打っているということで、事業者さんにとって非常にわかりづらい状況にはあるというのは認識しております。その辺につきましても、私どもも建設局も当然、認識はしてしまっていて、今すぐは難しいかもしれないですけど、将来的にわかりやすく制度、体制を見直していくとか、整理していく。そういうことは必要だと考えております。

具体的な事例を挙げますと、御堂筋で正にトラブルがありまして、屋外広告物条例上はオーケーだけれども、美観誘導の基準ではだめだという広告が現についているんです。少なくとも今回の取り組みを通じて、そういうことは起こらないようにしていきたいと思っています。

○真田建設局管理部長

屋外広告物条例と景観の部署が違うということで、我々としては条例に基づいて許可していかないといけない部分もありますし、そちらは要綱で処理されていくという部分があって、今委員からもお話があったように、やはり各都市の状況も見ながら、適正な体制を考えていかないといけないのではないかと。それから先ほど、お話がありましたように、例えば、市民の方々に対して一定の役割なり認識をお持ちいただくとすれば、やはりその前に市民の御理解を得るのも非常に重要じゃないかと思います。もちろんメリット、デメリット、いろんなことがこの景観計画が策定されることによって、今まで例えば広告でできていたことができなくなるという、その辺はこの景観計画を策定するに当たって、パブリックコメントも行ったり。あるいは屋外広告物で今までできていたことが仮にできなくなるのであれば、それは御理解していただく努力も要るのではないかなと。それと別の問題として連携という中に、やはり体制も含めて整理をしていかないといけないことがあると思っております。

○澤木委員長

よろしゅうございますか。

それでは、あと5番の景観計画改正案、それから条例改正方針案、資料の詳しい説明を受けていないので、何かお気づきの点があったらということですけど、嘉名先生が帰られる前に事前協議はされるのかどうかと質問を発して帰られたんですけど、このあたりはいかがでしょう。

○事務局

事前協議については、条例に位置づけるなどしていくと考えております。

○澤木委員長

具体的にはこれ新年度、次年度の議論になっていくと思いますので、とりあえずまた、資料4、5ですよね、また目を通していただいておりますので、次の議論に備えていただければと思いますので。

今日はいろいろ御意見いただきました。特に景観計画区域の決め方のところで事務局が迷っている部分の市の考え方とか、重点届出区域の指定のあたりでたくさんの御意見をいただきましたけれども、そういったところの御意見を反映する部分と、先ほどの屋外広告物条例との連携の部分も含めて、少し加筆修正するような形で直していきたいと思っております。次回、この資料3というところを中心に御議論いただいて、この委員会からの諮問に対する答申案を固めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

特にこれを言っておかないとというのがありましたら、よろしゅうございますか。

それでは、どうぞ阿部委員。

○阿部委員

最初に言われていたことと、嘉名先生から法定の景観計画と法定計画から外れてしまう部分とをどうリンクさせていくかという話が出ていて、今の屋外広告物に関しても条例部分と景観部分をどうリンクさせるかという、論理的には同じなんですよね。つまり国の法律で決まっている部分と自治体が自主的にやっていく部分のリンクがうまくいかないと、特に規制を受ける側にとっては、非常にわかりづらい。その辺を条例とか計画の特に法定じゃない部分の書き方だと思うんですけども、法定ではない自主的な部分にむしろ法定のものをうまく盛り込むことによって、その自主条例やあるいはその実施計画を見れば全体が見えるような、何かそういう書き方はできるような気がしていて、その辺のリンクをうまく規制を受ける側から見たときの見えやすさに配慮した条例と法、あるいは自主計画と法定計画とのリンクというのを工夫してもらえればというふうに思います。

○澤木委員長

よろしいでしょうか、以上で。

○事務局

ありがとうございます。検討させていただきます。

○澤木委員長

また阿部先生にもアドバイスをいただいて、法的な部分を検討していきたいと思います。

そうしましたら、あと残り時間が少なくなってきているんですけども、議題の2つ目、その他のところで、都市景観資源検討部会における都市景観資源(阿倍野区)についての審査結果の報告をいただいて、ここで承認していきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

じゃあ、これについてまず事務局から、資料説明をお願いいたします。

○事務局

では、阿倍野区の都市景観資源の審査結果について説明させていただきます。

資料6「阿倍野区の都市景観資源の審査結果について」をご覧ください。阿倍野区での募集につきましては、阿倍野区役所で昨年10月1日から12月26日にかけて行っていた、応募が160通、内容に重複がございましたので、応募件数としましては109件ございました。そのうち、阿倍野区役所から厳選の上43件の推薦をいただきまして、

今年10月2日、8日、14日に現地調査を行いました。現地調査では部会の委員に加えまして、委員会から山納委員にも御参加いただきまして、現地調査での評価、コメント等を踏まえ、12月2日に審査を行いました。

審査結果につきましては、以下に記載しておりますが、認知性、美観性、地域性、歴史・文化性などの評価基準をもとに、都市景観資源としてふさわしいかどうかを御審議いただき、結果、39件について都市景観資源の最終候補とすることになりました。

では、物件番号1番から順に御説明させていただきます。パワーポイントをご覧くださいと思います。

1番ですが、こちらにつきましては、阿倍野区の交通景観を特徴づけておりまして、認知性・地域性も含めて候補対象としております。マルとしております。

2番ですが、当地域を含めて、周辺を含む明確なランドマークといった点からマル、候補としております。

3につきましては、そのデザイン性の高さからも美観性を有しているという点からマルとしております。

4番ですが、こちらにつきましては、大阪南の玄関口にふさわしい認知性・地域性を有するといったことからマルとしております。

5につきましては、目をひく低層部のデザインが特徴的といったことからマルとしております。

6番につきましては、当時の市街地再開発の先駆けの部分でして、当時のまちづくりの努力もよく垣間見られるということから景観資源として適切としております。

7番ですが、阿倍野区が開発されるきっかけとなった経緯ですとか、著名人が眠っているといった歴史的な背景もあり、都市景観資源として適切マルとしております。

8番、認知性・地域性を有する阿倍野区の特徴的な文化施設といった点からマルとしております。

9番、警察署らしい風格ある建物といった点からマルとしております。

10番、こちら国の有形文化財として歴史的な価値も高く、地域の重要な景観資源といったことからマルとしております。

11番、歴史的・文化的価値も有しており、景観資源としても適切であろうということでマルとしております。

12番、街道筋の面影が残る歴史的都市景観が形成されているといったことなどからマ

ルとしております。

13番、こちら熊野街道らしさを特徴づける貴重な存在であるといったことなどからマルとしております。

14番につきましては、店の雰囲気が魅力的で、地域性や歴史・文化的な価値があつてマルとしております。なお、こちらにつきましては商店街として応募がありましたが、商店街自体には特段、特徴がないといったことから、本物件のみを景観資源候補として挙げさせていただきます。

15番、古代以来の大阪の歴史が感じられる坂でして、歴史的・文化的に地域の景観資源として評価できると、候補としてマルとしております。

16番、元屋敷ということで、歴史・文化的価値に加え、貴重な自然景観を創出しているといった点からマルとしております。

17番、歴史・文化的価値にも加え、保存方法にも配慮して地域で愛着を持って保存されているということからマルとしております。

18番、歴史的に由緒があり、強い地域性があると。また、立派な鳥居ですとか参道なども有していることなどからマルとしております。

19番、外周道路沿いの景観への配慮もなされていて、周辺環境とも調和しているといったことなどからマルとしております。

20番、商店街としてまちづくりに対する意欲が評価され、地域らしきもよく出ているといったことなどでマルとしております。

21番、礼拝堂が特徴的でして、また、地域のコンサートなどにも利用される。認知性や地域性なども有することからマルとしております。

22番、当時の雰囲気を残しつつも、地域住民のレンタルスペースとしても今なお活用されているといったことなどからマルとしております。

23番、歴史性にも加えまして、地域住民に愛され、活用されていて高い地域性を有しているということなどからマルとしております。

24番、こちらにつきましては、認知性は評価できるものの、地域性ですとか歴史性・文化性に特筆すべき特徴がないということなどから、候補対象外としております。

25番ですが、身近な公園として地域住民から親しまれているものの、美観性ですとか歴史的背景ですとか、地域的に寄与といった点から景観資源としての価値が特段あるわけではないのではないかということで候補対象外としております。

26番ですが、こちらは市の保存樹にも指定されていまして、歴史的価値にも加え地域性があるといった点からマルとしております。

27番につきましては、国の登録有形文化財として歴史的・文化的価値が高いといったことなどからマルとしております。

28番につきましては、人が多く集まる、人々の周辺の暮らしを思わせる歴史・文化性がすぐれているといったことなどからマルとしております。

29番につきましては、コーポラティブ住宅として先駆けでして、外観の質材にも工夫が施されている点からマルとしております。

30番につきましては、村野藤吾が築いた教会塔が地域のランドマークとなっていることなどからマルとしております。

31番につきましては、リノベーションによって長屋の価値を復活されている事例ということでマルとしております。

32番、国の有形文化財として、まだ現在もグループホームとして活用されているといったことなどからマルとしております。

33番につきましては、大正期の市営分譲住宅の特徴を残した歴史的・文化的価値があるといったことなどからマルとしております。

34番につきましては、目をひく意匠ではあるのですが、特に特筆すべき特徴は見出しがたく、また、地域に広く開放されている訳でもないということから候補対象外としております。

35番につきましては、人々の暮らしぶりがあらわれた貴重な景観で、認知性・地域性も有しているといったことなどからマルとしております。

36番、石畳、長屋の景観が調和して美観性に優れているといったことからマルとしております。

37番につきましては、デザイン性に独自性があって、保存状態も良好であるといったことなどからマルとしております。

38番につきましては、ノアの方舟をかたどった形が特徴的で、加えて地域性もあるということなどからマルとしております。

39番につきましては、特に特徴的な景観資源としては特筆すべきものがないということから、候補対象外としております。

40番につきましては、歴史的・文化性を有しており、地域の人々で保管・管理もされ

ている、地域性も高いということからマルとしております。

4 1 番につきましては、歴史的・文化的な意義に加えまして、子供たちの活動の場、貴重な自然環境としても認知されているといったことからマルとしております。

4 2 番につきましては、美観性を有し、または地域の人々による維持管理ですとか、イベントにもよく利用されているということから候補対象としております。

最後 4 3 番につきましては、昭和初期の貴重な建築物として歴史的・文化的価値を有する。また、地域でその魅力を発信しているということで景観資源の候補としております。

以上、4 3 件の紹介をさせていただきましたが、特に部会で判断し難いものがあれば、委員会での御審議をお願いしていたところですが、今回の阿倍野区につきましては、全件、部会で候補の選定まで行うことができました。

本日の委員会で御承認いただければ、今後、所有者への意向確認等、登録に向けた手続を行っていきたいと考えております。

以上です。

○澤木委員長

ありがとうございました。都市景観資源、この阿倍野区につきましては、下村部会長を初め、岡田委員、田中委員、橋寺委員に大変御負担をおかけしております。それから、山納委員にも現地調査に参加いただきましてありがとうございました。私は日程が合わなくて行けなかったんですけども、先生方には実際に現地を調査した上で、慎重に御審議いただき、候補の選定まで進めていただきました。先ほど事務局からありましたように、判断が悩ましいもの、あるいは迷うということで委員会に協議をしてもらう必要があるものはなかったということですけども、今の写真を見ていただいて、皆さんで特に異議がないということであれば、部会で選定いただいた候補、39件につきまして承認していきたいと思いますけどいかがでしょうか。よろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

○澤木委員長

ありがとうございました。今後は、先ほどありましたように所有者の方に意向の確認をしていただいて、登録していくといったような形の手続になっていきますので、市によりしくお願いしたいと思います。

それでは、何とか予定の時刻におさまってまいりましたけれども、本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。事務局何かありますか、よろしいですね。

景観政策につきましては、本委員会で出た意見を踏まえて、「今後の景観政策のあり方について」取りまとめ案という形でまとめていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

○中西都市景観担当課長代理

どうもありがとうございました。本日は長時間、熱心な御議論、または貴重な御意見をいただきまして、本当にありがとうございました。今後とも委員の皆様には御協力をよろしくお願い申し上げます。

なお3月に、御議論いただきました景観形成区域の区域界についての現地調査を設定させていただきたいと思っております。また同じく、本年度末に委員会を開催させていただきまして、答申の取りまとめをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

これをもちまして、第46回大阪市都市景観委員会は閉会させていただきます。どうもありがとうございました。